

西播磨佐用 たたらの里に咲くカタクリの花と一本桜

兵庫県佐用町〔旧三日月町 弦谷 & 旧南光町徳久・漆畑〕

2009.3.31.



旧南光町漆畑 光福寺の「大イトザクラ」



旧三日月町弦谷のカタクリ



東徳久 カタクリの里で

春を飾る華やかな花が「桜」であるのに対して、春の里山の雑木林の中でひっそり咲くのが「カタクリ」の花
花言葉は、「初恋」とか「寂しさに耐える」 風に身を震わせるその姿はびったし

西日本で咲くカタクリは氷河時代の生き証人。

地球の温暖化と共に里山東側斜面の山陰に追われ、まだ冷たい春の風に身を打ち震わせながら咲くピンクの花。
そのなんともいぬ姿に「ガンバレヨ」と声を掛けたい花で一番好きな花のひとつである。

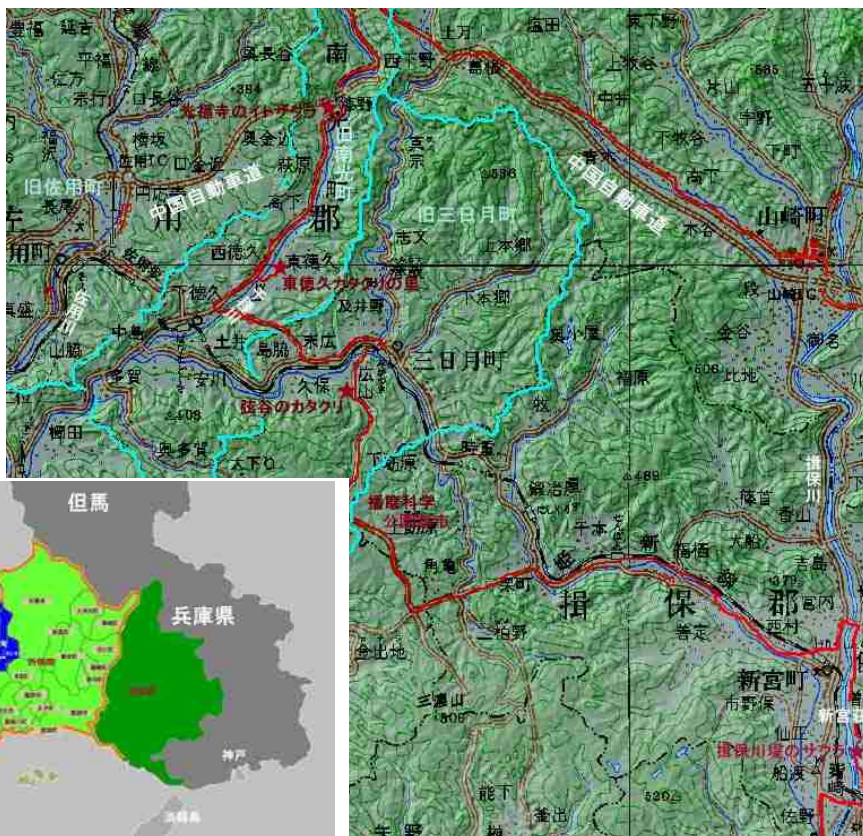
また、満開の花をつけた一本桜の老木には 元気に生き抜いてきた風格と力強さに、
春 やっぱり出会いたくなる花である。

桜便りが伝えられるようになると毎年気になるカタクリの花。近年の地球温暖化の進行で西日本の群落もめっきり小さくなったと聞いて、無性に「カタクリ」の花に会いたくなって、3月31日 暖かい日とに誘われて カタクリの花に合いにでかけました。
場所は たたらの里 西播磨 佐用町 旧三日月町の弦谷。千種川の本流・支流が中国山地から流れ下るこのあたりは 古代からの「たたらの里」。佐用町の大撫山周辺 南光町の中国道沿い そして 北の千種・岩鍋と何度も通った所である。

西播磨の山奥ですが、神戸からは中国道沿いに北播磨の中心「山崎(宍粟市)」から西へ行くか、まっすぐ西へ相生に出て、そこから北へ新道を放射光施設(スプリング8)のある播磨科学公園都市を抜け、佐用に向かうかどちらか。春の景色を楽しみながら、原付で4~5時間の距離である。〔高速道路を使えば1時間ちょっとで佐用までゆける。〕

途中 ラッキーなことに旧南光町西下野の中国自動車道の橋をくぐった漆畑の集落で思いもかけず、早咲きで満開になった光福寺の一本桜「光福寺のイトザクラ」にも出会えました。また、弦谷のカタクリの花と共に 千種川が流れ下る南光町東徳久の山裾の北斜面に咲くカタクリにも出会えました。

そんな春 西播磨たたらの里で見た花の写真アルバムです。



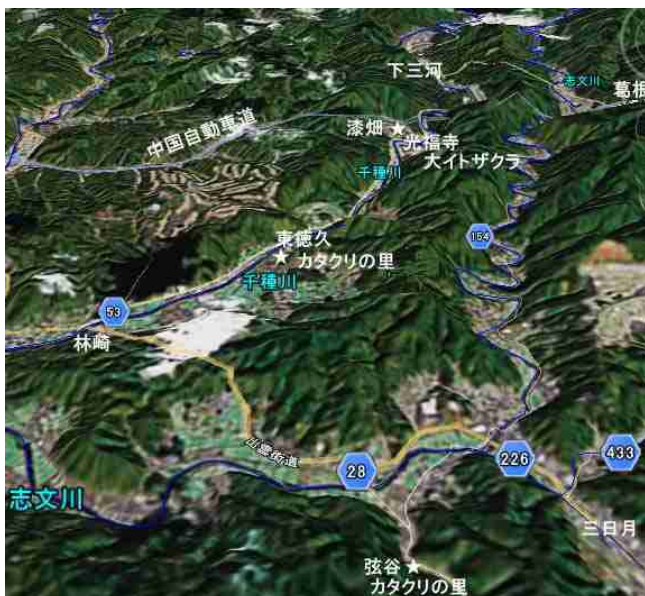
1. 旧南光町漆畑 樹齢 300年 枝垂桜の一本桜 光福寺「大イトザクラ」



旧南光町漆畑 枝垂桜の一本桜 光福寺「大イトザクラ」 2009.3.31.

千種から狭い谷間を南へ流れ下ってきた千種川が山崎断層の中を西に走って北中国自動車道の下をくぐり抜ける。その川沿いの谷間から少し奥へ山間に入ったところに漆畑集落が隠れ里のように静かにある。その集落の中心の高台に石垣の上に山門がある光福寺。山門脇の土塀の上から四方に枝を張り、垂れ下がった満開の桜が顔を覗かせている。土地のお年寄りが椅子を並べて、この堂々とした姿に見入っている。

私もその横に立ってその堂々とした姿に見入る。
見事な一本桜である。



土地の人たちに守り継がれたこの寺で、この桜がいつも集落を見渡し、村の人たちもこの桜をよりどころにしてきたに違いない。観光化していない素朴な隠れ里で静かに 一本桜を独り占め。今年初めて出会えた一本桜にうれしさがつのる。

光福寺の大イトザクラ

根回り 8m 高さ 13m 推定樹齢約 300 年のシダレ桜の老木。毎年 3 月下旬から 4 月上旬に開花。

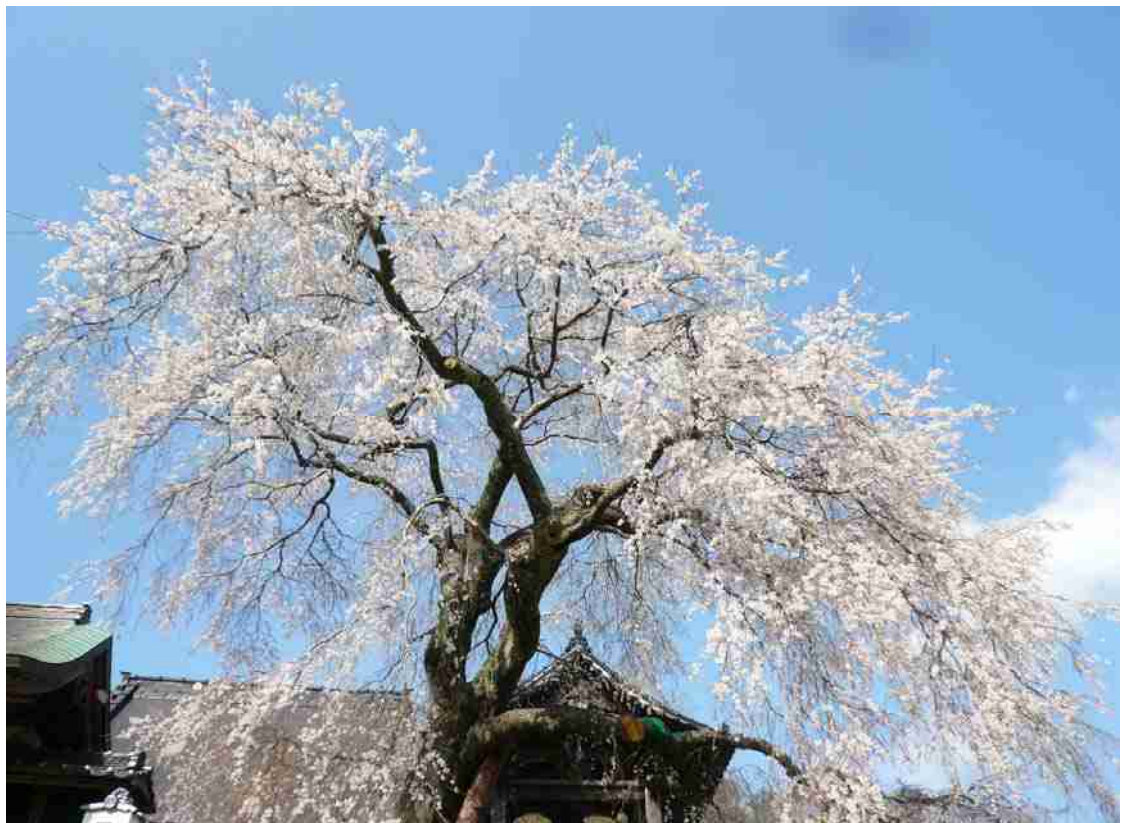
2~3cm の柄の先に 1.5~2cm の淡紅色の花を一花房に 2~5 個散形状につける。

満開時には四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体が淡紅色に彩られ壮観である。

光福寺の大イトザクラの案内板より



四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体を淡紅色に彩る光福寺の一本桜「大イトザクラ」〔1〕 2009.3.31.



四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体を淡紅色に彩る光福寺の一本桜「大イトザクラ」〔2〕 2009.3.31.



四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体を淡紅色に彩る光福寺の一本桜「大イトザクラ」〔3〕 2009.3.31.





四方に垂れた枝一面に花をつけ、樹木全体を淡紅色に彩る光福寺の一本桜「大イトザクラ」〔4〕 2009.3.31.



千種川が流れ下るたたら隠れ里 集落を静かに見守る一本桜 光福寺の「大イトザクラ」の里 漆畑 2009.3.31.

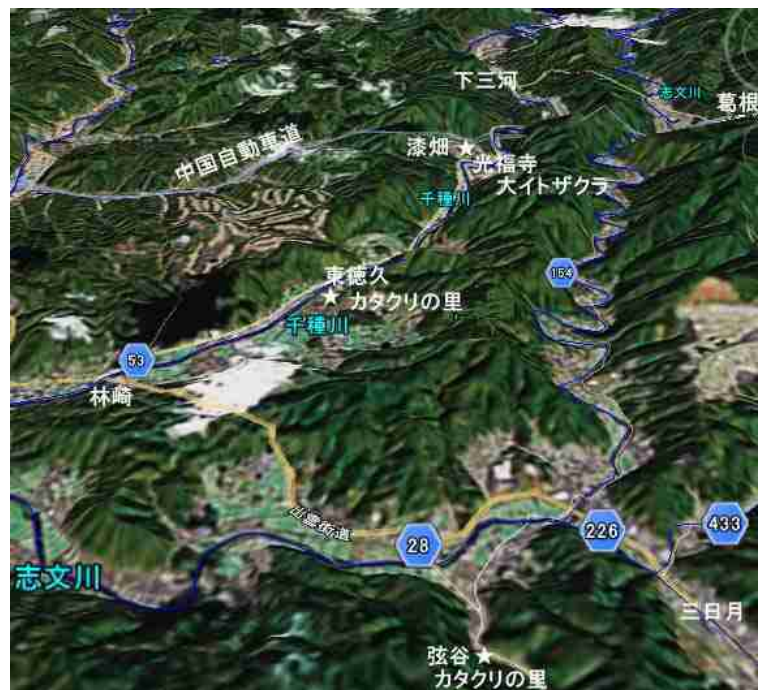
2. 旧南光町東徳久 殿崎のカタクリの里



足元を千種川が流れ下る丘の傾斜地の雑木林カタクリの群落 旧南光町 東徳久 殿崎のカタクリの里 2009.3.31.

漆畑の光福寺の「大イトザクラ」を観て、元の千種川沿いの道に戻って、西へ5分ほど行って 徳久の集落にかかった所の橋の袂に「カタクリの里」の案内板。知らなかったカタクリの里。

橋を渡ったところに座って談笑しているお年寄りに「すぐ横の川沿いの丘の斜面で、今 きれいに咲いている」と聞く。



川沿いの道を少し戻って 河岸段丘の上へ少し登った雑木林の傾斜地に、見事にピンクの花を咲かしている群落がありました。

「弦谷」の群落から比べるとちょっと小さいが、愛らしいピンクの花が幾つも傾斜地に直立して身を風に揺すっている。この姿に出会いたかった。

斜面に顔をこすり付けて花を見る。余り知られていないのか ここでも独り占めでした。

昨年に比べると随分 少ないという。群落が狭まっていると聞きました。





小さなピンクの花が 顔をこちらに向けて 風に身を揺すっていました 東徳久 殿崎のカタクリの里 2009.3.31.

3. 旧三日月町 カタクリの群生地 弦谷



旧三日月町弦谷のカタクリ群落 2009.3.31.





カタクリの群落がある弦谷の東側の急な斜面

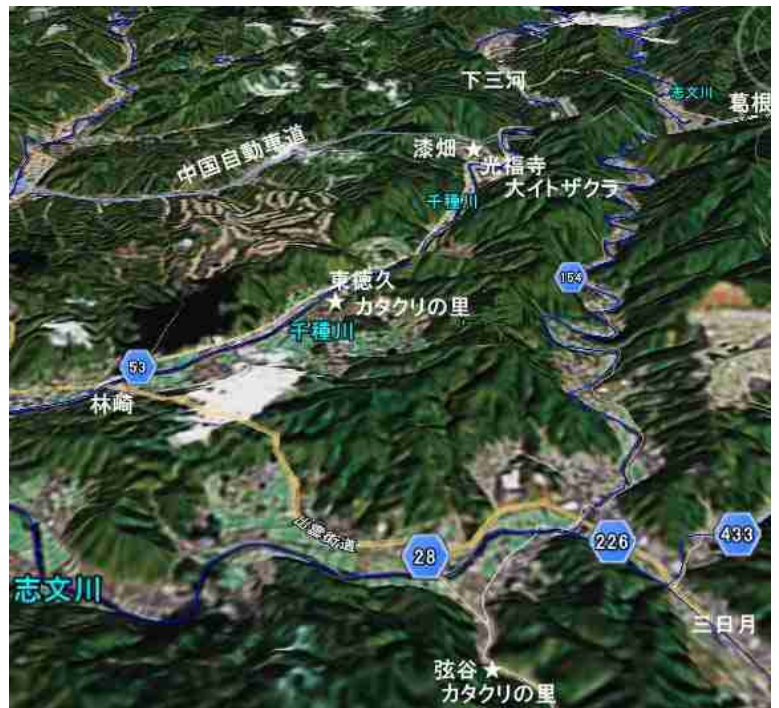
弦谷 カタクリの里の入り口 2009.3.31.

東徳久のカタクリの里から、弦谷のカタクリの里へは少し佐用の方へ行って、太田井橋(林崎)のT字路を橋を渡って南へ三日月町 播磨科学公園都市の方へ行けばよいが、ここまで来たら、やっぱりたたらの里 佐用の大撫山が見たくて、一旦そのまま佐用坂を越えて佐用の町へ行って、再度引き返した。

太田井橋を渡って、山間にはいり、峠を越すと旧の三日月町。姫新線沿いになる所で、播磨新宮・弦谷の案内板で南へ折れ、線路を越えて山間に入るすぐのところが、弦谷の小集落。道の左手の小さな雑木林の小山の東斜面がカタクリの群生地。

見覚えのある集落の細い道にはいり、山際に行くとカタクリの里。もう日差しが弱まった3時過ぎ。

花を閉じたのではないかと、また、群落が小さくなったのでは……と心配しながら 入口の管理のおばさんに声を掛ける。「今 一番いい時 斜面一杯に咲いている」と。この弦谷のカタクリは青みの強い花が咲く。



急勾配の山腹に斜めにけられた観察路に入ると、日当たりの良い南斜面側では カタクリの群落が少し消えていましたが、斜面一杯に咲き誇るカタクリの花。

2004 年春以来のご対面 一安心である。

この弦谷のカタクリの群生地は急勾配の山腹の斜面に花が咲いているので、群生するカタクリのすぐ前まで顔を近づけられるので、他では得られないアングルのカタクリの写真が取れる。

今日はそれほどでもないが、一番の魅力は垂直に立ち、風の正面に顔を向け、身を震わせる姿。

知らず知らずにそれを探す。



旧三日月町 弦谷 カタクリの群生地で 2009.3.31.

4. 帰りは夕日に映える 播磨新宮 揖保川の堤の桜を眺めつつ



奥播磨 たたらの里より 流れ下る揖保川 春の夕暮れ 2009. 3. 31.

弦谷を後にするときは夕暮れ近く。 たたらの里から流れ出た水が夕日に映える姿が見えるかもしれないと、帰りは まっすぐ南へ丘陵地を播磨科学公園都市にでて、そこから揖保川沿いを播磨新宮から姫路を経てかえろうと……。 「カタクリ」に出会いたいと西播磨へ出かけましたが、カタクリと共に素晴らしい一本桜にも出会えました。

たたらの里 西播磨佐用に咲くカタクリの花 2009. 3. 31.



春の里山の山 陰でひっそり咲く「カタクリ」の花
花言葉は「初恋」とか「寂しさに耐える」 風に身を震わせるその姿に
つい「がんばれ」と声を掛けたくなる



播磨新宮周辺の揖保川理夕暮れに映える 土手の一本桜 2009. 3. 31.

久しぶりに風に身を震わすピンクの姿に出会えて しっかり がんばらねば・・・と。
 やっぱ、春 里山の斜面にひっそり咲くピンクの花が一番。
 派手さはありませんが、しっかりと自立の気風のみなぎる花 一番好きな花です。

西の空が少し赤みを帯びだした夕方 揖保川の土手に咲く桜にその夕日が当たり、映えてきれいでした。
 揖保川とその周辺の田園がゆっくりと色を変えてゆくのを楽しみながらの勝手気ままな風来坊
 のどかな陽だまりツアーでした。

2009. 3. 31. 夕方近く 揖保川の土手を走りながら
 by Mutsu Nakanishi



【参考資料】

1. 風来坊 Country Walk

春風にそよぐ「かたくりの花」兵庫県三日月町弦谷 自生地で 2004.3 月

<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/walk/2walk03.pdf>

2. 和鉄の道 Iron Road

古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk 西播磨 佐用町 大撫山製鉄遺跡を訪ねて 2003.11 月

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron01.pdf>